

東京外環
(関越～東名)

2004年1月

GAIKAN 外環journal ジャーナル

第15号

(発行所)国土交通省関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所
〒158-8580 東京都世田谷区用賀4-5-16 TEビル7F TEL/FAX 03-3707-1491(外環専用ダイヤル)

<http://www.ktr.mlit.go.jp/gaikan>

外環道(関越道)東名高速)

沿線の環境を調査

国土交通省と東京都は、外環道計画沿線の環境の現況を詳しく把握するため、環境の調査を始めます。

調査する内容や箇所等は、PI外環沿線協議会で相談して設定しました。冬季から調査を始め、春季・夏季・秋季に行い、その結果は順次公表します。

調査は、学校や公園などで行う予定です。付近にお住まいのみなさまのご理解とご協力をお願いします。

大気質等

一酸化窒素(NO₂)、浮遊粒子状物質(SPM)を20箇所毎季1週間連続観測します。

その他、5箇所毎季を年間観測、3箇所毎季を毎月観測、3箇所毎月連続観測します。

騒音・振動等

騒音・振動を32箇所



地質調査の例



騒音の観測例

24時間連続観測します。その他、3箇所毎季で低周波音、7箇所毎季で地盤卓越振動数を観測します。

地下水等

地層を調べるため64箇所ボーリングして、地質の状況を把握します。また同箇所毎季に観測計器を設置し、季節ごとに水位等の変動を年間観測します。

また、湧水や野川の流量等も観測します。

動物・植物

路線周辺(概ね片側250mの範囲)にどのような種類の鳥や魚、昆虫等の動物が生息しているのか、季節ごとに調査します。特に野



採集調査の例

協議員と地域ごとに相談

PI外環沿線協議会の協議員の方々と、4地域で計6回の「エリア懇談会」を開催し、環境調査の箇所や方法について相談しました。



4地域で協議員と相談しました

川・国分寺崖線周辺や玉川上水周辺、石神井公園等の大規模公園周辺では、捕獲や採集で詳細に行います。

その他

電波障害、日照障害、史跡・文化財、景観などの状況を調査します。



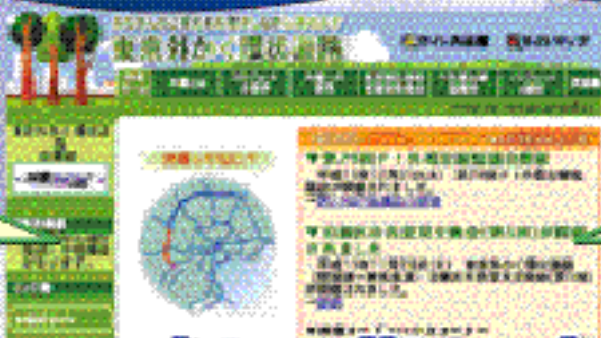
鳥類の観測例

環境調査の詳細は、外環調査事務所へお問い合わせ下さい。また、ホームページでもご覧いただけます。

TEL&FAX ☎ 0120-34-1491 (平日9:15~17:30)

知って下さい。外環計画

昨年のアクセス数14万件
ありがとうございました



外環ホームページにお越しください
今後も外環に関する情報を公開していきます。
みなさんのご質問・ご意見をお聞かせください。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/gaikan>

第5回沿線区市長意見交換会

環境調査・インターチェンジ について意見交換

11月28日に、外環沿線区市長の意見交換会が開催されました。国と都は環境調査やインターチェンジ(IC)に関する資料を提出し、各区市長は次のような意見を交換されました。

環境調査について

「今後の計画づくりの基礎となるので、しっかりと調査を行って欲しい」「新たに環境の調査が必要となった場合は、市と協議して進めてほしい」「地域の特性を考慮して調査して欲しい」などの意見が出されました。

今後の課題

「大深度地下部分の地盤上部をどうするか、議論することが必要」「今後の議論の道筋を明らかに



環境調査やインターチェンジについて意見が交換された

国土交通省は、「環境の現地調査について具体的な箇所等がおおよそ固まってきたので、冬季の観測からスタートできるように、ご協力をお願いしたい」「外環整備は喫緊の課題で1日も早い整備が望まれるため、早く安く完成できるように関係機関の合意が図られるよう努力していきたい」と表明しました。

国と東京都から

PI外環沿線協議会

環境調査、交通の 分析について議論

住民と区市、国・都が話し合う協議会では「環境調査」と「外環道の必要性の有無」について議論が行われています。

「話し合いの結果」を報告

冒頭に、前回退席した7名の協議員と国と都の話し合いの結果が報告され、協議会が再開されました。

会議では、環境調査について「構想段階だということにより明確に表明していくことが重要」「環境調査など地域特有の問題は、地域ごとで意見交換を行うことも必要ではないか」などの意見が出されました。

また、必要性の有無についても議論されました。

第26回・10月23日(木)

環境調査を「地域ごと」に話し合う

環境の現地調査は、地域に特化した議題であるため、地域ごとに相談する「エリア懇談会」を行うことになりました。

第27回・11月4日(火)

環境調査について議論

「環境影響評価方法書に対する区長・市長の意見書を公開して欲しい」などの意見が出されました。また、石原国土交通大



住民と区市、国、都の話し合いが続けられている

「効果」について議論

第29回・12月2日(火)

「交通の分析」に関する資料をもとに、外環道が整備された場合の「効果」が議論されました。一方で、通過交通や渋滞緩和に対する疑問が出され、その試算や緩和の実例が紹介されました。

また、外環と環八・環七の関係について議論が行われました。

第30回・12月18日(木)

環境調査について説明

冒頭、東京都議会定例会における都市計画局長の「インターチェンジは必要不可欠」との答弁について都の協議員より趣旨説明があり、議論が行われました。

続いて、都の協議員が環境調査に関する項目選定について報告しました。また、現地での調査箇所や調査方法について、国の協議員が説明しました。住民協議員からは、必要に応じて追加調査をして欲しいなどの意見がありました。

協議会は公開しています。

情報提供して対話する「オープンハウス」

沿線で22回開催、2千名がご来場

沿線協議会、地元区市、国土交通省、東京都が共催する「オープンハウス」が、平成15年6月から沿線区市で22回開催されています。

オープンハウスでは、行政の担当者や地元の協議員が外環に関して説明を行うほか、ご来場者の疑問や相談に個別に対応しています。オープンハウスは、今後も各区市で開催していく予定です。開催予定は、ホームページでご覧下さい。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/gaikan>



杉並区桃井第四小学校



世田谷区喜多見東地区会館